

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600114		
法人名	株式会社 康生会		
事業所名	グループホーム三愛の里うつね(2F)		
所在地	〒621-0801 京都府亀岡市宇津根町土井ノ内48番地1		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅染町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年4月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員間で情報が共有できるように、職員個々での情報発信を心掛けている。(チームケアの強化)</li> <li>○利用者主体のケアができるよう利用者の行動に意味を持って考えるようにしている。</li> <li>○利用者の自立支援及び機能維持のため、出来る範囲での作業を依頼するよう心掛けている(家庭菜園での収穫、洗濯物干し・畳み、食器洗い、掃除など)</li> <li>○OJTやOffJTを積極的に行い、職員のスキルアップを図っている。</li> <li>○チームケア向上のため、ユニットテーマを決め、それを目標に日々のケアを行うよう心掛けている。</li> <li>○気付きを大切にし、その気付きをケアに生かすようにしている。(目配り、気配り、心配り)</li> <li>○多職種間(介護員・ケアマネ・看護師)の連携を密に取っている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>設立から5年の当事業所を訪れると、種々の花々やアートフラワー等の花尽くしの「もてなし」を受けます。今も庭では沢山のひまわりの苗を育て、利用者さんたちは夏に大輪の花が咲くのを楽しみにされています。社是を「感謝と真心」と定める株式会社康生会は、運営理念にも1. 利用様、家族様の身になり、2. 感謝と謙虚な心で介護をし、3. 住み慣れた地域で尊厳のある生活が送れるよう援助する事を掲げ、その精神は利用者の日々の暮らしに息づいています。楽しい食事には調理の得意な専属スタッフを置き、さらに利用者の希望を容れ、テイクアウトや弁当、だし巻きの店等を利用して食生活を豊かにするとともに、コロナ終息後を見すえ、地元の新しい店の開拓もされています。コロナ禍で何かと制限のある中、規模を縮小しつつ納涼祭や新年会等の行事を実施し、時には利用者に聞いて、霧のテラスや七谷川、コスモス園や苗秀寺等へのドライブを楽しみ、その様子は広報紙「えがお」でも発信されています。敷地内の散歩やラジオ体操、嚙下体操で筋力や咀嚼力の低下を防ぎ、看護師による健康管理やオンコール体制、協力病院との連携等を背景に、利用者は日々安心して過ごされています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内に理念、ユニットテーマを掲示し、職員が常に意識できるよう努めている。 ・毎週月曜日の申し送り時に理念唱和を行うよう心掛けている。 ・2ユニットが理念を基にしたユニットテーマを掲げ、職員が共通認識を持つようにしている。	ユニットテーマ「丁寧な仕事を心掛ける・チームワークを大切に・利用者とのコミュニケーションを大切に」は、ユニット会議で見直しをして継続を決めている。今年度は新型コロナウイルス対応等もあり、個人面談で振り返る等の丁寧な振り返りはできていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の店舗での買い物を実施している。 ・地域の美容室より訪問カットを依頼している。 ・食事会など施設行事の食事を地域の店舗に依頼している。	コロナ禍により、以前の様に、交流スペースの地域への開放や、ボランティア受け入れ等はできていない。今まで使っていなかったいろいろな店を開拓し、幕の内弁当や押しずしの出前、パンのランチセットのテイクアウト等により馴染みの関係を築くようにしている。米は地元の農家で買い、近所から頂いた筍も食卓に上った。菜園での野菜栽培に近所の方が手伝いに来てくれている。地域からの認知症相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所見学にて説明と理解に努めているが、コロナ禍の為見学は実施できていない。 ・認知症の相談があった場合にはできる限り分かりやすい説明を行うよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎月の事業所の取り組みや行事などを報告し、そこでの意見や情報をサービス向上に活かしている。 ・出席者から事前に会議での議題のアンケートを取っている。	併設の小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を開催し、市の高齢福祉課と地域包括支援センターの職員、地域住民代表や有識者や家族代表等が出席されている。今年度は書面開催が多かったが、対面では利用者の現状報告や行事・研修報告と丁寧な資料添付があり、家族からの感謝や、災害時備蓄の提案、事業所空き状況の連絡依頼、外部評価受審への提言などがあった。議事録は玄関に置き、誰でも見られるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・協力体制の構築や情報収集に努めている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員が参加し、情報交換をしている。地域包括支援センターの要望に応え、事業所の空き状況を郵送している。保健所とは新型コロナウイルス関連の連絡で頻回のやり取りがある。消防署からは防災訓練で指導を受け、警察からは不審者や空き巣の防犯連絡が届くなど、行政関係機関と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束の現状について年4回会議を行っている。</li> <li>・身体拘束廃止研修を定期的に行い、職員に対して教育を行っている。研修では高齢者虐待も身体拘束の一部として捉えている。</li> <li>・新任職員に対しては入職時に身体拘束の基本的な説明を行っている。</li> <li>・利用者に納得のいく説明や声掛けの工夫によってスピーチロック防止に努めている。</li> </ul>	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、定例の委員会と研修を実施している。利用者にソファに座って頂く場合も、その高低やクッションの深さが、拘束と下肢筋力の鍛錬という両方の側面を併せ持つことを話し合ったり、帰宅願望に関してはなぜそのように思うのか本人の訴えを聞き、最良の策をとることや、センサーマットの位置づけ等を話し合っている。電車の線路が近いので玄関のみ施錠しているが、新型コロナの心配がなければ1.2階間の行き来や玄関までの移動は自由である。	定期的に身体拘束の研修をされていますが、参加記録のみで、職員の習得度が確認できません。簡潔にレポートや所感を書いてもらい、職員の資質向上や学びの度合いを具体的に確認されるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への不適切な言動や対応については職員間、主任、管理者への報告を徹底している。</li> <li>・身体拘束廃止研修では、高齢者虐待防止についても研修を行っている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者がいない為、それらを学ぶ機会は設けられていない。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解、納得していただけるような説明を心掛けている。</li> <li>・理解して頂いたことを確認しながら説明を行っている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会時などでできるだけ家族と話し、要望を聞くようにしている。</li> <li>・施設玄関に意見箱を設け、積極的に意見を取り入れるようにしている。</li> <li>・運営推進会議で家族代表からの意見を運営に反映させている。</li> </ul>	運営推進会議に家族が参加して意見を述べておられるが、肯定的な意見が多く、本音が聞けていない。家族アンケートのひな形を準備しているが、直近の外部評価のアンケートと混同される懸念があり、タイミングを計っている。面会は制限付きで予約で行う予定をしている。スマートフォンでの面会も試みたが、画面が小さく、本人が混乱されたり、聴力の低下等で会話が辛いケースがあり、利用者には不評であった。筋力低下を懸念し、運動させてほしいという意見が家族から上り、運動時間や行動範囲を延ばしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議を毎月開催し、運営に関する意見交換を行っている。</li> <li>・ユニット会議を毎月行い、職員間で意見交換を行っている。</li> </ul>	電話回線が1本なので外部からの電話が通じ難いことや、インターホンが事務所にある為事務員不在の折に来客に気付けない等の問題が職員から指摘され、対処中である。利用者の処遇等に関する意見はユニット会議で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や資格取得については積極的に取り組めるよう支援している。</li> <li>・資格取得については、会社独自で勉強会を設けている。</li> <li>・希望休の確認や勤務調整をできるだけ希望通りに行っている。</li> <li>・必要な資格や経験等、常に職員個々がチャレンジしやすい環境・条件の整備に心掛けている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員個々をアセスメントし、個性や力量を把握したうえで指導していくよう心掛けている。</li> <li>・エルダー制を導入し、より個別に指導できるよう努めている。</li> <li>・スーパービジョンを取り入れ、職員の主体性を育てるようにしている。</li> <li>・事業部内研修、外部研修への参加機会を設けている。</li> <li>・業務で役割分担を行い、自身が責任を持って業務にあたる機会を設けている。</li> <li>・個々の能力に見合ったスキルアップが図れるよう配慮している。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム協会、グループホーム連絡会に加入し、その他の同業者間で行う研修や交流会、催しには積極的に参加するようにし、情報収集やサービスの質の向上に努めている。</li> </ul> <p>※今年度はコロナ禍の為一部参加できず。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の会話の中で不安なことや困っていることなどはないか、寄り添い話を聴くように心掛けている。</li> <li>・本人にとって安心して暮らせる環境作りや関係づくりに努めている。</li> <li>・「その人らしさのアセスメントシート」を活用し、入所時の情報収集に努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族から職員に話しかけてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>・職員からも困っていることがないか尋ねるようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で意見を出し合い、家族、利用者双方に対して多角的にサービス提供ができるように努めている。</li> <li>・入所時のケアプラン作成時に本人、家族からの要望を聞き、サービス導入の足掛かりとしている。</li> <li>・24時間シートを活用し、その人の生活状況を把握するようにしている。</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方的な与えるケアではなく、利用者のその時の状況を踏まえて、本人の思いに沿ったケアを行うように努めている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の様子を月1回の生活状況連絡書で伝え、何か課題がある時や家族の支援が必要であれば協力していただき、共に本人を支えられるように努めている。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出先を馴染みの場所に設定したり、面会等で馴染みの人と会える機会を設けるよう努めている。※現在、面会は実施しているが、外出については制限している。</li> <li>・本人や家族から馴染みの人や場所を聞き取るようにしている。</li> </ul>	利用者に意見を聞き、馴染みの七谷川沿いなどに外出し、地元の弁当やだし巻きのおいしい店等も聞き、購入している。脳トレや週刊誌、新聞を定期購読されている方への購読の支援、手芸キットの買い物や編み物や縫物、園芸、生け花教室等の趣味の継続への支援、手紙や電話の支援等もしている。家族には毎月本人の近況に写真を添えて便りを送っている。面会禁止の際はリモート面会の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションや日常の会話を中心に他利用者との交流が深められるよう努めている。</li> <li>・2ユニット合同で開催する行事を設けたり、それ以外でもユニット間で行き来ができるよう、他ユニットの利用者とも交流が図れるようにしている。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や地域に働きかけ、契約終了後も安心して暮らせる為のサービス提供に向けてフォローを行っている。</li> <li>・サービス利用時から家族との関りを大切に、相談しやすい関係性を作るようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の趣味嗜好に合った、飲み物や食事の提供に努めている。</li> <li>・日々、本人の希望や意向を聞き取り、それをケアに活かすように努めている。</li> <li>・本人の性格や生活リズム、行動等から本人の思いを汲み取るようにしている。</li> </ul>	<p>コロナ禍により、以前の様に雑誌や週刊誌を買いに行けなくなった方のために配達可能な書店を見つけたたり、散歩や行きたいところ、誕生日に実現してほしい事などを日頃から聞き取り、ユニット会議で検討している。家族には計画作成前に電話等で要望を聞き取り、「運動をさせてほしい」などの要望のある時は、アセスメントや介護計画に取り入れて実現できるようにしている。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時には本人の生活歴や、生活環境などをアセスメントし、職員全員が周知するよう努めている。</li> <li>・「その人らしさのアセスメントシート」を活用している。</li> <li>・必要に応じて本人、家族よりこれまでの生活について聞き取りを行う。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や顔色など状況の変化を見逃さないようにしている。</li> <li>・朝夕の申し送りや記録を確認しながら、一人ひとりの現状把握に努めている。</li> <li>・体調変化や状態変化は個別の記録表を作成し、状況と変化を把握するよう努めている。</li> </ul>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のカンファレンスやユニット会議での意見(家族の意向も踏まえて)を計画作成に反映させている。</li> <li>・ユニット会議には多職種が出席し、利用者の状況の共有を図っている。</li> <li>・少しでも気になる点があれば、職員間で意見交換し、それをケアプランに生かしている。</li> </ul>	<p>本人・家族、主治医をはじめ多職種の意見を総合して介護計画を策定し、家族に説明し同意を得ている。以前は看護師・介護職が同席して、毎月数名の利用者のカンファレンスをおこない、3か月に1度はモニタリングを実施していたが、最近では新型コロナ対策として、密を避け、モニタリングは担当から書面で貰い、計画作成者が集約して次の計画に活かしている。長期目標は1年、短期目標は半年で更新し、変化があれば随時更新している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを意識した記録を心掛け、記録以外でも連絡・相談・報告を行い、常に情報を共有するようにしている。</li> <li>・職員間の連絡手段として、連絡ノートを活用している。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位と柔軟性を持つことを職員一人ひとりが意識し、本人や家族の状況に対して、迅速に対応できるように努めている。</li> <li>・先入観に捉われず、多角的な視点でサービス提供ができるように職員のスキルアップやチームケアの向上に努めている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアや施設を活用し、本人の生活が豊かで楽しいものになるように支援している。 ※コロナ禍の為、実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の訪問診療を実施し、体調管理を行っている。必要なら医師の指示により病院受診を行っている。 ・医療機関への受診については本人及び家族の希望を聞いたうえで、適切な医療を受けていただけるよう支援している。	入居時に希望を聞き、全員が事業所の協力医(内科)への変更を希望されている。皮膚科・耳鼻科等は家族や職員が通院同行をする。協力医療機関には24時間連絡がとれ、指示を仰ぐ事が出来る。急な発熱等は職員が受診支援をする。歯科往診も可能で、受診結果、検査結果は家族に送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者との関わりの中での変化や気付きを記録し、それを看護師に伝えることで、利用者それぞれに適した看護を受けられるよう支援している。 ・ユニット会議やカンファレンス、申し送りに看護師も参加し、情報の共有に努めている。 ・日常生活の中で関りが持てるよう、看護師にも介護業務に携わってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・施設、病院、家族と連携を取り、利用者が安心かつ適切な治療を受けられるとともに、早期退院に向けての情報交換及び情報共有に努めている。 ・退院カンファレンスでは積極的な意見交換を行い、また施設での生活に対する理解を求め、退院後も本人が安全、安心に暮らせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所契約時に終末期ケア(看取り介護)についての指針の説明や、家族の希望を事前に確認するようにしている。 ・看取り介護が適切に行われるよう、体制強化に努めている。	重度化や看取りに関する指針は作成されているが職員のメンタルヘルスも考慮し、慎重になっている。そのため職員研修には至っていない。重度の方に医療的措置が必要になれば病院に行かれている。急変があれば看護師か管理者かケアマネジャーが夜間でも電話を受けて対応している。	利用者・家族が住み慣れたグループホームでの最期を望まれ、医療・看護・介護の緊密連携があつての看取り体制です。看取りに関しては地域性も考慮して周到に進められ、組織としての対応力を高められるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応マニュアルを作成し、急変時はそれに則って対応している。 ・救命講習などで学ぶ機会を設けている。 ※コロナ禍の為、実施できず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練に利用者、職員が参加し、災害に備えている。夜間を想定した訓練も行っている。</li> <li>・事業所の立地が水害危険区域でもある為、水害に備えた訓練は特に力を入れている。</li> <li>・自然災害での迅速な対応の為、防災メールの登録を全職員が行うよう努めている。</li> </ul>	年2回の訓練は火災・水害・地震とパターンを変えて消防署の指導の下、利用者も参加して行っている。今年度は火災想定で避難誘導と消火器の操作を学び、訓練後の反省で、1階が火元の時、2階からの避難場所をテラスに変更してはどうかと消防署に提案している。過去に水害の避難指示が出た際、夜間連絡を受けた職員が全利用者を避難場所まで誘導した経緯があり、その反省と考察から、以後は2階への垂直避難に変更した。水、食料等3日分の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者それぞれに応じた働きかけや、言葉掛けを行っている。</li> <li>・職員同士、利用者同士、職員と利用者、いろいろな場面において、その人の人格やプライバシーを損ねないように、また謙虚さを持ってもらうよう配慮している。</li> </ul>	利用者により、丁寧な言葉遣いを好む方、親しげな声かけを好む方がおられ、その方に合わせた対応をしている。居室やトイレは扉を開け放さないようにし、排泄に関する言葉は医療用語を使用する等、利用者には知られないようにしている。日々の生活でも、利用者の意思を確認し、自身で判断・決定できるようにいくつかの選択肢を提示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しの事でも選択肢を設けたり、目で見えて選んでいただくなど、自己決定できるような関わり、雰囲気作りに努めている。</li> <li>・日常の会話の中で、本人の意向を伺い、できるだけそれに応えるようにしている。また、思いを汲み取ることに努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人をしっかりとアセスメントし、利用者個人を理解するよう努めている。</li> <li>・職員本位にならず、一人ひとりのペース、生活リズムにあった関わりを持てるよう心掛けている。</li> <li>・状況に応じて本人の希望を優先できるよう努めている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問理容では本人の希望を聞くようにしている。</li> <li>・好みの柄や色、季節に合った服装が選べるよう見守り、支援している。</li> <li>・身だしなみや髭剃り、整髪などは出来る限り、本人にしてもらっている。介助の必要な方については職員が行っている。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の献立には本人の嗜好を考え、季節に合わせたメニュー作りを行っている。</li> <li>・誕生日などの行事食の際には本人の希望を確認し、提供している。</li> <li>・その人ができる範囲で食事の準備や後片付けなど役割を持ってもらっている。</li> <li>・食事中は音楽をかけてリラックスできるようにしている。</li> </ul>	献立はバランスよく和・洋・中華をとり混ぜ、利用者の希望を反映させて作成している。料理の得意な職員が筋の皮むきなど調理の下準備に利用者も参加できるように配慮している。配膳等もしてもらい、菜園で栽培した胡瓜、トマト、ブロッコリー等を利用者と収穫し、賞味している。外食ができないため、地域の店で行事食や弁当の出前、ランチセット等のテイクアウトを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量等を個人に合わせて提供し、栄養バランスを考慮するとともに、食器類にも気を配り、盛り付けの工夫を行っている。</li> <li>・水分、食事量を記録し、摂取量の把握に努めている。</li> <li>・水分摂取の機会を増やし、味や形態を変えて水分補給に努めている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアを習慣とし、職員が声掛け、見守り、介助にて毎食後実施し、清潔保持、誤嚥性肺炎防止に努めている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつや尿取りパッドは一人ひとりに合った物を選択し、できるだけトイレでの排泄を意識した支援を行っている。</li> <li>・個別排泄表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、統一した支援が行えるよう努めている。状態が変化した場合は適時表を更新している。</li> </ul>	介護チェックシートを使用し、排泄と水分量を把握し、排便のみ別に一覧表を作り、本人のリズムに合わせた支援をしている。その結果、あまり薬に頼らず、座薬の使用や排便の失敗が減っている。殆どの方がリハビリパンツとパットを使用し、見守りや軽介助を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排便チェック表を用いて、排便の有無を確認し、個々の排便リズムの把握や定期的に排便ができるよう一人ひとりに応じた支援を行っている。</li> <li>・便秘予防、排便促進の為、食事や水分管理を行い、レクリエーション等で体を動かしたり、腹部マッサージを行っている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の体調や希望を優先し、入浴できるようにしている。</li> <li>・入浴を拒む利用者については、無理強いはせず、日や時間をずらすなど希望に沿って支援をしている。</li> <li>・入浴剤を一緒に選んだり、昔の話を聴く等、楽しんで入浴してもらえよう心掛けている。</li> <li>・浴槽に入ることが困難な方についてはバスリフトを使用し、できるだけ湯船に浸かっていたりできるようにしている。</li> </ul>	マンツーマンでゆっくり入浴介助をし、一日に3名ほど入浴されている。入浴表を用いて確実に週2回の入浴機会を確保している。必要に応じてバスボードや個浴用リフトを用い、全員が浴槽に浸かれるようにしている。入浴後医師処方保湿剤を使用し、乾燥による皮膚トラブルはみられない。水虫等、医師の指示があれば足浴もおこなっている。拒否の方にはタイミングを見計らって再度誘っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して気持ち良く眠れる環境作りや、本人の体調や習慣、状況に応じて休んでいただけるよう心掛けている。</li> <li>・室温や湿度、寝具交換(10日に1回は定期交換)に気を配るようにしている。</li> <li>・音や光に敏感な方に対しては、できるだけ気にならないよう配慮している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報や薬剤情報を確認し、変更がある場合は申し送りや連絡ノートに記載し、職員全員が把握するようにしている。</li> <li>・服薬時は職員間でダブルチェックを行い、誤薬や飲み忘れのないように努めている。</li> <li>・服薬確認シートを活用し、確認がしやすいようにしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができること、できないことを把握し、職員と関りながら、洗濯物干しやお盆拭き、掃除を行えるよう支援している。</li> <li>・天気が良く暖かい日は、ベランダに出て日光浴をし、気分転換を行っている。</li> <li>・ユニット間で行き来することで気分転換が図れるようにしている。</li> <li>・趣味を生かした余暇活動(編み物・読書など)を行っている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブや外食などは季節が感じられることに配慮するなどして計画、実行している。</li> <li>※コロナ禍の為、外食は行っていない。</li> </ul>	<p>コロナ禍ではあるが、毎日敷地内を散歩したり、職員とともに掃除に出て外の空気を吸っている。ユニットの入り口は開放され、利用者は1、2階、エントランスホール内を自由に行き来されている。時には七谷川や苗秀寺等の花見・紅葉狩りドライブを楽しんでいる。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が希望される場合、家族と相談した上で所持してもらうようにしている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙のやり取りをされている利用者に関しては必要に応じて職員が間に入り、支援している。</li> <li>・自身で電話を掛けるのが難しい方で、電話をして欲しいと要望がある場合は、希望に添えるように支援している。</li> <li>・電話では会話が難しい方も顔を見ることで安心できるようビデオ通話を利用している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有スペースには季節ごとの作品や写真を展示している。</li> <li>・温湿度計や空気清浄機、加湿器などを設置し、また利用者の要望も考慮してそれらの調節を行っている。</li> <li>・雑誌や新聞を並べて配置し、いつでも自由に見ることができるようにしている。</li> </ul>	<p>リビングは一面が天井までの窓で、開口部が広く明るい。上部の窓をすべて開けて換気をし、2台の大型空気清浄機を使用している。夜間は次亜塩素消毒液を噴霧し除菌をしている。フロア内にソファを置き、廊下の行き止まりにも椅子を置いてくつろぎのスペースを作っている。洗面台は5つあり、順番待ちの必要はない。リビングに面した事務室と脱衣室の入り口には頂き物の布を利用した、職員手作りの暖簾がかけられている。水槽の金魚に名前を付けて餌やりをしている。今年利用者からよく見える窓近くの花壇にひまわりを植えて楽しむ予定である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有スペースにはソファを設置し、廊下には一人でゆっくり座れる椅子や本棚を設置している。</li> <li>・エントランスにはベンチを置き、少し離れた所でくつろげるような場所を提供している。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で使用していた家具などを自宅同様に設置するなどしている。</li> <li>・家族写真や自身の作品や誕生日プレゼント等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。</li> <li>・本人の生活パターンや動線に基づいて、家具やベッドの配置を考え、より過ごしやす居住空間になるように工夫している。</li> <li>・本人が過ごしやすいように照明や季節家電の設置を行っている。</li> </ul>	<p>居室には季節の衣類等を入れるクローゼット、電動ベッド、エアコン、居室用24時間換気扇、カーテンを設置している。以前から自宅で使用されているなじみのチェスト、棚等の家具を持ち込まれ、写真や自作の手芸作品などを飾っている方、仏壇や遺影を持ってこられている方もいる。昼間はリビングで過ごされる方が多いが、自室で昼寝をされたり、夜間自室でテレビを観る方もおられる。畳の生活の方はおられない。周囲には遮るものがなく、窓からの採光は良い。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の扉に名前プレートを貼り、本人が確認しやすいようにしている。個々に応じてネームプレートは工夫している。</li> <li>・利用者一人ひとりに応じて、安全に自立した生活が送れるよう家具の配置を考え、車椅子やシルバーカーの置き場にも配慮している。</li> <li>・ベッドの高さを自身で立ち座りがしやすいよう調節している</li> </ul>		